

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立 114 年の歴史を有する本校の公立高校としての役割は、生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材を育成することにある。また、平成 29 年度より大阪府立高校初の（併設型）中高一貫校となることを機に、さらなる飛躍を期す。

<めざす学校像>

「南河内の誇りを胸に抱き、世界とつながり、活躍できる人材」の育成校をめざす。

<育みたい力>

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ア 新システム（45分×7限授業、全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む
- イ 公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組む
- ウ 全普通教室に設置したICT機器を活用した教育の推進
- エ 家庭での学習習慣の確立のための工夫
- オ 英語の運用能力の推進

※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度（平成 26 年度 64%）を毎年 5 % 引き上げ、平成 29 年度には 80% 以上をめざす。

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) 充実した学校生活の結果として「進学」を捉え、世界に通じるとともに地域に対する深い愛情をもった高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。

- ア 「総合的な学習の時間」と LHR 等を有機的に連携させ、3 年間を見通した教育計画を作成し、平成 29 年度に完成する。また、計画に地域の人材・施設の活用を積極的に取り入れ、地域のニーズも取り入れながら、双方向の人材育成となるよう努める
- イ 現役での国公立大学進学者の合格者数（平成 26 年度現役合格者数 58 名）を 3 年後に 30% 増やす。あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。

※（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（平成 26 年度 80%）80% 以上を維持し、3 年後に 90% 以上をめざす。

※（保護者向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（平成 26 年度 77%）75% 以上を維持し、3 年後に 90% 以上をめざす。

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが、卒業後の力の源になることから、学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

- ア 学校行事・学校生活の充実と部活動の奨励
- イ 社会人としての人権意識・マナーの醸成

※（生徒向け）学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率（平成 26 年度 76%）を維持し、平成 29 年度には 80% 以上にする。

(2) 異文化交流による国際教育を推進する。

- ア 国際交流（オーストラリア、ドイツ）の充実
- イ 海外交流校の発掘と交流

※（生徒向け）学校教育自己診断における国際（理解）教育の満足度 80% 以上をめざす。

4 中高一貫校への準備と地域・保護者との連携

(1) 平成 29 年度開校の中高一貫校に向けて、教育内容を検討し教育の充実を図る。

- ア 全国の教育先進校の視察を行い、中高 6 年間の教育内容を検討する
- イ 学校 Web ページや校長ブログによる情報の発信

※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度（平成 26 年度 88%）90% 以上をめざす。

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

- ア 安全・安心な学校づくり
- イ 保護者と連携した生徒の規範意識の向上
- ウ 地域貢献を推進

※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成 26 年度 90%）90% 以上を維持する。

※（保護者向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成 26 年度 93%）90% 以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>I. 生徒・保護者 () 内は昨年度%。教員も同様。</p> <p>1. 学校満足度</p> <p>(1) 生徒 「富田林高校へ進学してよかった」・・・ 90.1% (90.7)</p> <p>(2) 保護者 「富田林高校で学ばせることが出来てよかった」 94.3% (92.9)</p>	<p>第 1 回 6 月 20 日 (土)</p> <p>(1) 平成 27 年度学校経営計画について</p> <p>*素晴らしいと思う。</p> <p>*世界にはばたいて南河内に戻って来る、そんな人材を作ってほしい。</p> <p>*富高生が幼稚園児と事前交流も含めて、文化祭で一緒に発表したのはすごい。幼稚園児の保護者も巻き込んでいた。</p> <p>*文化祭が 9 月から 6 月に早まったので心配していたが、よくできていた。</p>

*保護者の満足度はこの6年間での最高値である。

2. 学力の育成

(1) 生徒

「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」・・・ 72.5% (71.8)

「授業中は集中して先生の話を聞いている」・・・ 81.5% (81.4)

「家庭学習を毎日90分以上している。」・・・ 66.1% (59.4)

(2) 保護者

「学校の学習活動への取組に満足している」・・・ 82.2% (83.2)

*上記の生徒の3項目はこの6年間での最高値である。

3. 進路実現

(1) 生徒

「進路希望達成に適切な選択科目が多い」・・・ 79.0% (78.8)

「学校だけで、進路達成に必要な学力が身につく」・・・ 54.2% (61.7)

「理解度に応じて補講や講習が行われている」・・・ 82.1% (85.7)

「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」 80.9% (80.3)

(2) 保護者

「学校の進路指導への取組に満足している」・・・ 75.7% (77.3)

*学校だけで進路達成に必要な学力が身につくように授業（補講習）改革を進める。

4. 豊かな感性

(1) 生徒

「学校の人権教育は適切である」・・・ 88.9% (88.5)

「学校は国際交流を積極的に行っている」・・・ 92.4% (新規)

「学校行事に参加するのは楽しい」・・・ 92.4% (93.2)

(2) 保護者

「学校の学校行事への取組に満足している」 86.8% (92.8)

「学校の人権への取組に満足している」・・・ 86.3% (85.0)

「学校は国際交流を積極的に行っている」・・・ 95.7% (新規)

*国際交流に関して生徒・保護者両者から非常に高い満足度を得られた。

5. 保護者連携

(1) 生徒

「学校はHP・ブログなどで情報をよく流している」・・・ 69.9% (68.9)

「学校からの連絡を保護者に伝えている」・・・ 76.8% (75.4)

(2) 保護者

「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」・・・ 84.7% (85.5)

「学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けている」 87.1% (88.1)

「保護者説明会や学級懇談会の回数は適当である」・・・ 91.2% (92.1)

「学校はHP・ブログなどで情報をよく流している」・・・ 86.4% (87.6)

「学校からの連絡は子どもを通じて把握している」・・・ 71.6% (69.7)

*保護者との連携（情報発信）は概ね達成できている。

II. 教員

1. 教育活動

「アクティブ・ラーニングを意識して授業をしている」・・・ 73.7%

「ICT機器を使った授業を行ったことがある」・・・ 82.5% (62.7)

「生徒の状況について教員間で話し合う機会が多い」・・・ 82.5% (69.5)

*教員の授業改善に対する意識の向上が、生徒の「学力の育成」に関しての上昇に結びついている。→上記 I-2-(1)の生徒の学力育成

*生徒に関する情報共有もこれまで以上にできている。

2. 学校経営

「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」・・・ 94.7% (89.8)

「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」・・・ 91.2% (89.8)

*校長の指導力は十分に発揮されている。

*生徒はより高い目標を持って頑張っている。

*学習時間を増やすより中身の充実が大事なのではないか。

(2) 中高一貫校設置に向けての進捗状況について

*内進生と外進生はうまく交わるのか。

*入学選抜で地元優先がないと、「地域」という意味が薄れるのではないか。

*地域とのつながりも大切だが、選抜においては公平性という観点も重要。

*中学生から総合学習を中心に、考える力を育てていくことに期待している。

*社会は考える力とコミュニケーション力を求めている。

*総合学習は富田林の中高一貫校の有力な手段となる。

第2回 12月12日(土)

(1) 平成27年度学校経営計画 進捗状況について

①システムの見直し：32・33単位混在、50分6・7限混在→33単位、45分7限授業

*生徒に変化や混乱はあったか？

②行事等の再編（文化祭：9月→6月、体育祭：6月→9月）

*1年生にとって6月の文化祭は入学したばかりで戸惑ったのでは？

③部活動の活躍

*科学部が全国野生生物発表大会で環境大臣賞を受賞したのは素晴らしい。

④地域連携

*地域の幼稚園児が親しみをもって高校生と交流しているようだ。

*地域の小学生にとって見本がいるということは重要。

*地域に根差した形で取り組んでいてとても魅力的。

*委員]子どもが育つ地域を作る活動の中心に富高があることを誇りに思う。

(2) 中高一貫校の設置の進捗状況およびSSHへの応募について

*科学研究における「気づき」について、どう意識付けをしていくか。

*気づきをもたせるためには何かのきっかけが大事である。

きっかけづくりは先生が与えてやるのがいいと思う。

*ESD（持続可能な開発の教育）は難しいことではない。

自分たちが学んできたことを次の世代や場所でどう活かすか考えることである。

そのような体験をさせ、気づきをもたせることが、社会に出たときに役立つ。

そのためには先生たちがどんどん参加して考えていくことが大事。

大変だが頑張してほしい。

第3回 3月4日(金)

(1) 平成27年度の総括

①学校教育自己診断結果

A. 生徒の学習状況

*家庭学習時間が増えているのはいいが、塾に頼っている傾向はよくない。

*学校の指導だけで一定の大学まで進学できるのは、地域住民として安心。

*「教員の授業に関する工夫」と「授業中の生徒の集中度」が上がっている。

*「課題や宿題の量が適切である」が低いのは、宿題が多いからか？

B. 保護者の意識・保護者との連携

*子どもより保護者の方が学校に対する満足度が高い。

*遅刻に関して保護者への連絡はどうなっているか。

C. 生活指導

*規則の遵守に関して、教員の意識と生徒の現実との乖離を感じる。

D. 教員の授業への取組

*高校でのアクティブラーニングはどのようなことをしているのか、興味深い。

(2) 中高一貫教育校の設置に向けての進捗状況

学校側より、平成29年度の中高一貫校が始まるときの制服の業者コンペが行われたことを報告。

*新校にむけて制服を変えるのは、学校側としては大変だと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 新システム（45分×7限授業、全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む</p> <p>イ 公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組む</p> <p>ウ 全普通教室に設置したICT機器を活用した教育の推進</p> <p>エ 家庭での学習習慣の確立のための工夫</p> <p>オ 英語の運用能力の推進</p>	<p>ア 新システム（45分×7限授業、全学年33単位）による学校生活をデザインする</p> <p>イ 教科別に1週間の公開授業週間を設定し、他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる</p> <p>・生徒による「授業アンケート」を5月、11月に実施し、全教科による授業改善シートを作成する</p> <p>ウ 全教科でICT機器を活用した授業を推進し、情報の共有をはかる</p> <p>・ICTを活用した研究授業を実施し、成果検証を行う。またICT環境の改良を行う。</p> <p>エ 家庭学習記録ノートの作成と個人面談</p> <p>オ 1・2学年に英語能力試験（外部試験）を実施</p>	<p>ア （生徒向け）自己診断における授業満足度（平成26年度64%）70%をめざす</p> <p>イ 教科別に1週間の公開授業週間を設定できたか</p> <p>・2回の「授業アンケート」を実施し、全教科による授業改善シートが作成され改善がすすんだか</p> <p>ウ ICT機器を活用した授業ができたか（教員向け学校教育自己診断）ICT活用授業を行ったことがあるか（平成26年度63%）80%以上をめざす</p> <p>・ICT環境の改良ができたか</p> <p>エ 家庭学習ノートの活用ができたか（80%以上）</p> <p>オ 1・2学年が英語能力試験を受験し、成果検証ができたか</p>	<p>ア （生徒向け学校教育自己診断）授業満足度は63%と横ばい（△）</p> <p>・来年度より校務分掌を再編し、4つの分掌体制とする。これまでの「進路」と「教務」を合わせて、「学習部」とする。進路指導も含めた学習（授業）の在り方を検討していく。</p> <p>イ 教科別に1週間の公開授業週間を設定できた。また、アクティブ・ラーニングをテーマにした研究授業も実施でき、その後、有志の授業研究会も始まっている（○）</p> <p>・2回の「授業アンケート」を実施し、全教科による授業改善シートが作成され、改善が進んでいる（○）</p> <p>ウ ICT機器を活用した授業については、（教員向け学校教育自己診断）ICT活用授業を行ったことがある（平成26年度63%）は83%と大きく前進している（◎）</p> <p>・ICT機器は理科、社会、英語の特別教室にも設置し、HR教室と同じ授業活用ができるようになる。また、HR教室のICT改良も進んでいる。（○）</p> <p>・今後は、アクティブ・ラーニングの授業をどのように進めていくかが課題</p> <p>エ （生徒向け学校教育自己診断）家庭学習を毎日90分以上行っている生徒（平成26年度59%）は66%となり、家庭学習ノート活用の成果が出ている（○）</p> <p>オ 1・2学年全員に1月、英語能力試験（外部試験）を実施（○）</p>

府立富田林高等学校

<p>2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活の結果として「進学」を捉え、世界に通じるとともに地域に対する深い愛情をもった高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。</p> <p>ア 「総合的な学習の時間」とLHR等を有機的に連携させ、3年間を見通した計画への改善に取り組み、平成29年度に計画を完成する。また、計画に地域の人材・施設の活用を積極的に取り入れ、地域のニーズも取り入れながら、双方向の人材育成となるよう努める。</p> <p>イ 現役での国公立大学進学者の合格者数（平成26年度現役合格者数〇名）を3年後に30%増やす。あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。</p>	<p>ア・3年間の総合的な学習の時間を検討する組織作り</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間とおして、課題設定や研究発表により、課題発見・解決能力やプレゼンテーション能力の育成を図る（個人発表とクラス代表発表大会を実施） <p>イ・本校独自の「学習見える化システム」を1年時より活用し、将来の目標を早期に見えさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者に適切な進学説明会を継続して実施する 放課後、土曜日に自習室を解放 進学講習の充実 勉強合宿（2年生）の実施（新企画） 	<p>ア・総合的な学習の時間を検討する組織がどの程度機能し、指導計画の完成度で成果を検証する</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究型の課題研究ができ、また個人のプレゼンテーションも学年全体でできたかを検証する <p>イ・「見える化システム」の利用者数の把握（利用者50%をめざす）</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学説明会の成果検証（保護者向け学校教育自己診断）進路指導の満足度（平成26年度77%）80%以上をめざす 自習室利用率の向上（生徒向け）学校教育自己診断利用率（平成26年度40%）を50%に向上 2学年後半から計画的に進学講習が実施できたか（週1回、国・数・英） 勉強合宿参加希望者50名以上 	<p>ア・「総合的な学習の時間」を検討する組織（有志）は、1年を通して積極的に活動し、2学年にわたる計画を作るところまでできている。この組織の活動が来年度の新しい分掌「創生部」に繋がっている。探究学習を進める分掌が生まれた。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年以上に探究型の課題研究ができ、また個人のプレゼンテーションも学年全体でき、来年度に繋がっている。2月に、校外で開催される地域フォーラムで発表している。（◎） <p>イ・「見える化システム」は1年生全員に利用説明を行っている。また、3年生は各担任に配布したタブレットで「見える化システム」により進路面談（生徒、保護者）を行っている（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学説明会の成果検証（保護者向け学校教育自己診断）進路指導の満足度76%と横ばい（△） 自習室利用率の向上（生徒向け）学校教育自己診断利用率は37%とやや下がっている。学習塾などの外部施設の利用に流れている（△） 利用者の増加による自習スペース確保のため、来年度、食堂を自習可能なスペースとなるよう改修する予定（△） 2学年は、国・数・英の進学講習を計画的にしている。また、1学年も英語の進学講習を行っている。 勉強合宿（3月末）参加希望者は50名を超えている（○）
-------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

府立富田林高等学校

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが、卒業後の力の源になることから、学校行事・部活動等の一層の充実を図る。 ア 学校行事・学校生活の充実と部活動の奨励 イ 社会人としての人権意識・マナーの醸成 (2) 異文化交流による国際教育を推進する。 ア 国際交流（オーストラリア、ドイツ）の充実を図る。 イ 海外交流校の発掘と交流</p>	<p>(1) ア・昨年度に検討した行事の見直しの効果検証 ① 文化祭・体育祭の実施時期の変更 ② 3年間とおした遠足計画 ③ ペナント（球技大会）見直し ・部活動への参加を奨励 ・学校行事や部活動などへの生徒のやる気を引き出す記念品（グッズ）の作成 ・人権研修の実施計画の見直し イ・挨拶、遅刻指導の充実と生活マナーの向上 ・式（入学、卒業、始業・終業など）での標準服着用の指導 (2) ア・オーストラリアの姉妹校との交流の充実 ・ドイツ（ザーラント）との交流の充実 イ・中高一貫校での修学旅行（中学校・高校）の検討 ・海外交流校の情報収集と調査</p>	<p>(1) ア・（生徒向け）学校教育自己診断結果における行事満足度（平成 26 年度 93%）90%以上を維持 ・部活動加入率（平成 26 年度 95%）90%以上を維持 ・（生徒向け）学校教育自己診断結果に人権教育満足度（平成 26 年度 89%）80%以上を維持 イ・（生徒向け）学校教育自己診断結果における校則遵守率 90%以上（平成 26 年度 94%） (2) ア・できるだけ多くの生徒が海外の高校生と交流 イ・東南アジアで修学旅行先や姉妹校提携先を発掘できたか （生徒向け）学校教育自己診断結果で国際交流満足度を測定し、70%以上をめざす</p>	<p>(1) ア・（生徒向け）学校教育自己診断結果における行事の満足度は 92%と維持（◎） ・部活動加入率 92%で 90%以上を維持（○） ・（生徒向け）学校教育自己診断結果に人権教育の満足度は 89%と維持（○） イ・（生徒向け）学校教育自己診断結果における校則遵守率は 95%（◎） (2) ア・中国、台湾の高校生と 1 日交流。 ・タイ、オーストラリアの生徒と 10 日程度の交流。（◎） イ・台湾新北市の北大高級中学と 9 月に姉妹校提携（◎） （生徒向け）学校教育自己診断結果で国際交流の積極度は 92%と高評価（◎） ・来年度からの海外修学旅行に向けて、英語会話能力の新たな育成計画を検討中</p>
<p>4 中高一貫校への準備と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 平成29年度開校の中高一貫校に向けて、教育内容を検討し教育の充実を図る。 ア 全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を検討する イ 学校Webページや校長ブログによる情報の発信 (2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。 ア 安全・安心な学校づくり イ 保護者と連携した生徒の規範意識の向上 ウ 地域貢献を推進</p>	<p>(1) ア 全国の先進中高一貫校の視察と情報収集 イ 効果的な情報発信のための学校 Web ページの充実 (2) ア・教育相談委員会による情報収集と共有 ・安全安心のための学校環境の整備 イ 家庭と連携し、生活指導上の問題（頭髪、服装、遅刻・欠席等）を早期に解決する ウ 地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる</p>	<p>(1) ア 中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか イ 効果的な情報発信ができたか （保護者向け）学校 Web ページなどの情報発信満足度（平成 26 年度 88%）80%以上を維持する (2) ア （生徒向け）学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度 60%以上（平成 26 年度 57%） イ 遅刻件数の 2 割減 ウ 河川清掃などの継続</p>	<p>(1) ア 改革 PT のメンバーが京都市立洛北中高校を訪問し、洛北中高校の実践を学校づくりに取り入れている（○） イ（保護者向け）学校 Web ページなどの情報発信満足度は 86%と 80%以上を維持している（◎） (2) ア （生徒向け）学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度は 56%と横ばい（△） イ 遅刻件数は、(12 月末現在) H26 年度：2,480→H27 年度：2,161 で、13%減（△） ウ・文化祭では地域の幼稚園児とダンスやコーラスコンクールでは地域の小学校との協同活動を実施 ・河川清掃などの継続 ・公民館活動に参加し、NET と生徒が地域の小学生に英語の出前授業を 3 月に行う（◎）</p>